

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 誠和	代表者	赤島 健	法人・事業所の特徴	当法人は地域の中で20年の運営実績があり、特別養護老人ホームを中心に多種の高齢者施設を運営しているため、介護度や状況に合わせたサービス事業所選択が可能となっている。また、法人全体で地域福祉の向上に取り組んでいる。
事業所名	グレースケア あじさい	管理者	三石 哲也		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	人	1人	人	人	3人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> サービス評価の時期を早めて、余裕をもって取り組む 秋頃には実施 	前回の改善計画に記載が無いため、評価の理解が得られてなかった。8月～9月に実施できていた。		書類の不備があった為、評価が得られなかった。配布時の書類確認・内容を再確認する。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> カフェなど、地域や家族参加の行事を企画する 	カフェの案内をご家族、地域の事業所にした。30名の参加。また、隣接の特養、グループホーム利用者の方もご家族と参加され、大変、良い雰囲気を実施できた。	事業所は、静かな環境の中であって、不快な音や臭いはありません。日中の玄関施設は、どのようにしているのか？	施設内環境部分の点検と劣化部分の修繕。フロア内の環境を整え快適な生活空間を作る。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 施設へ来る機会をつくる。 まず防災訓練を地域と共同で実施できないか関係各所と検討する 	地域の行事への参加がスタッフの事前配置が出来てなかった為、行えなかった。ご家族から、相談しやすい場所としての評価は得られた。	職員は、事業所内でも外でも気持ち良く挨拶してくれる。相談ごとがあれば、すぐに対応してくれる。事業所の内容など関わりがある方しかわからないと思う。	カフェを地域の方が誰でも気軽に参加することが出来るように案内方法やネーミング・内容等を変更する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の特性を知ってもらうための広報活動として、1枚もので活動のお知らせペーパーを作り配布する。 	ご家族に対して、日頃の様子を伝える為、行事や日中の活動写真を配布。隣接のケアハウス広報誌に活動を掲載した。	事業所を利用されている方は、色々な所へ出掛けて行って、四季を感じるなど楽しみにされている。地域の方を交えた会議ということで、もう少し参加があっても良い。	本人、家族に地域支援（サロン・老人会・友人との外出等）におけるニーズを抽出して、活動に向けての取り組みを実施する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> 出席者を増やすため、実施方法を見直す。会議室でなく、茶話会のような方法も検討する。 	運営推進会議が何かという理解が難しかった。わかりやすい文章で事前に説明して関心を持ってもらう。	運営推進会議に参加して少し内容がわかるようになった。	案内の文章をわかりやすい物へ変更して、運営推進会議の参加しやすくする。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難場所であることを契約時に説明する 避難訓練時に地域の人に避難してきてもらう 	日中想定避難訓練を実施した。夜間想定避難訓練、地震・津波想定した訓練など、マニュアルの見直しをしていく。	事業所が地域の人々の避難場所になるということなので、頼りになります。避難訓練の写真などあればわかりやすい。	避難訓練時の様子をホームページやあじさいだよりを活用して報告する。